

-397-

美術半衿帶上他組類各種

京城明治町

兎り商店

四行發售 五月一
金貨一圓 一三五〇、〇〇〇
銀貨一圓 一三五〇、〇〇〇
銅貨一圓 一三五〇、〇〇〇
紙幣一圓 一三五〇、〇〇〇
...

資本勢力

資本とは何ぞ、各學者の説異なる所ありと
資本とは何ぞ、各學者の説異なる所ありと
資本とは何ぞ、各學者の説異なる所ありと

露兵侵入事件

露兵侵入事件 露兵侵入事件
露兵侵入事件 露兵侵入事件
露兵侵入事件 露兵侵入事件

東拓の荷爲替

東拓の荷爲替 東拓の荷爲替
東拓の荷爲替 東拓の荷爲替
東拓の荷爲替 東拓の荷爲替

局長歡迎會

局長歡迎會 局長歡迎會
局長歡迎會 局長歡迎會
局長歡迎會 局長歡迎會

帝室債務決定

帝室債務決定 帝室債務決定
帝室債務決定 帝室債務決定
帝室債務決定 帝室債務決定

東拓貸付規則

東拓貸付規則 東拓貸付規則
東拓貸付規則 東拓貸付規則
東拓貸付規則 東拓貸付規則

課税免許外人

課税免許外人 課税免許外人
課税免許外人 課税免許外人
課税免許外人 課税免許外人

牛病防疫の計畫

牛病防疫の計畫 牛病防疫の計畫
牛病防疫の計畫 牛病防疫の計畫
牛病防疫の計畫 牛病防疫の計畫

仁川山木浦へ出張を命ず 仁川山木浦へ出張を命ず
仁川山木浦へ出張を命ず 仁川山木浦へ出張を命ず
仁川山木浦へ出張を命ず 仁川山木浦へ出張を命ず

朔日石檢製造所

(三) 田が勤て居る役所に行つて訊く積りで、引返へると、郵便箱のある四ツ角から、南へ西側の三軒目、浅黄野郎に白抜のふもを遣ひ附で、バツタリ會つたのが、山田の親友「杉村さん」通稱を破魔王と呼ばれて代事嫌いの浮浪漢、好く云へば饑民の親物で、年人生の半ばを過て未だ家となさず近頃同郷人の辨護士の許に居り候。
「近い、君ちゃんか。」
云つたが、何故か適当な顔で、そのまゝテク〜と行かうとするのを、呼び止めて、山田の宿所を知らぬかと問ふと、知らぬで、其の言はれど云ふ、憤として、夫れで

●鏢の陳列
本町通りなる近遊骨殖店にては一雨ばかり珍蔵の緋織・紺糸等の鏢を店頭陳列する所。韓人の來客を非常に多し。昨日の如きは混雑の爲め顧客を抑へ破れた程なり。又因に記す右節句當て込みの仕入品とは早速自由結正き時代。鏢にして母國に於ても多く得安かり。珍品にて一見に出掛けるべしとれ。勸申燃心して、なんぢに。

●殉職者に贈金
仁川在留中上藤氏外二名發起人となり義に江華島にて

居ては何が何にか、ちつとも歸が分りやし
云ふと、君子は漸く涙をぬめて語り出した
が、其要領を書けば慈うである
君子は今日家を出て、山田に會ふべく、早
速旭町の某下宿を訪ふた、車の停まるのを
待ち兼ねて、楓林の地に着くか着かぬに
しらと降りて、玄關で、山田さんはんは、ど
うお、今朝はど家へ引越したん云ふ
侍つとして、何處へと、問ひ返へすと、何
處だか知りませんと、頗る余所々々しい
顔に降らぬでなかつたが、那處でとより
第一山田の行商が案じられるので、早速山
田地に至り、種々無談の末野村の妻ツルと云ふ
が横合より八筈聞敷とか何と云ふ口を
叩きしと西は痛くも立腹し此尼女奴とばかり
り面部外敷ク所を摸り飛ばしたる騒ぎに聲
言出張双方に對し厳しく説諭を加へたり
馬の拾う判る
牛乳屋上野文次郎は曩に馬一頭を拾得せしが
旨届出でし由は當時の紙上に報せしが右
は同地牛骨澤居住の韓人李天白の所有に係
るものと判明せしかば一昨日仁川署を介し
同人に引渡したるが申込みたるも上野村
及び梨雲を呈せんと申込みたるも上野村

ないかね、それとも山田さんが外に情婦でも出来たぞ云ふのかい。」

「そんな事なら妾はいつでもいふですが、雨うでないなら、甚麼ことだか唯だ泣いてばかり居ては、妾には儲け譯が分らないのだよ、だから、さあ早くちやつと其譯をね話してよ。」

「姐さん、實はね……」

云はふとしたが、又た泪に迷つたか、あはは得云はす、其儘ワツと咽び入つて仕舞ふ、仲居はもどかしさうに、少し怒氣を極へ

「お前さんのやうに、那様泣いてばかり店を張り居れる韓人妻世實(よゝ)も、野村桑子(くわ)を買入れしも、少くも高値にて賣行き面白からざるにぞ同日午後八時三十分事件の韓人方に至り買戻し興るも、機密隠しれたるも韓人は聞入れず一口二口爭ふ内互に調合を初められたが二三韓人の應付する者ありし爲め光臨はシタ、かゝ揉り付けたる處、野村官出(くわ)張して兩人を警察署に引致し取調の結果妻世實に治療料金五圓を出しめて事済

●人の妻を摸る 仁川海岸魚市場へ野村桑子(くわ)の乗組員佐賀(さか)生れのもの、野村藤太郎(ふじ)の本船へ一昨日午後九時頃

役所の金でも費消のつたらしい、それが爲め
の免職、之れも夫れも自分故ではあるまい
かと思ふと、君子は今朝の手紙を見た時の
恐みより、寧ろ山田の身が突然で、どうで
も賣りたいといふ念が増して、そのまゝ、車
で走らせて、目的もなく、方法を探し過つ
たが、遂々知る事が出来なかつた。

● ヨボに撲られた羽虫

△右巻料五圓貰つて事済
京城寺町六丁目居住の池田光蔵(三三)と云へ
るは南大門通りの九車場にて野菜を商ふ者
なるが去る一日同じく南大門通に野菜の露

仲居は唯だ呆されて、
「まあ、君ちゃん、何うしたんだ……さうやつて唯だ泣いてばかり居たつて、何
が何やら要にはちつとも露が分らないぢや
ないか、」
聞はれても、君子は唯だ言葉はなくて、切
なさに感歎するばかり、
「那處に泣いてばかり居らずと、早く譯を
れ話してよ。」
妻、妻はど、どうしたらよ
「だからさ、早く譯をれ話して云ふのぢや

第二章 落膽 (二)

渡支那、臨時調查局技師某氏の談なりと。於ては、前記の如く、仁川に於て、其の船を大にせしむるも、同港の爲めに、船六隻の船を、然れども、仁川の人士が唱導せる繁榮を講ずるを最大急務なりとす。而して其に能ふんや、妾は之れから、役所へ行つて、語ねるからと、車を返へさうとする君子を呼び止めて、杉村は「駄目だ、く、役所へ行つて山田の宿所が分るものか、山田は昨日限り役所を廢したのだ」と云ふより「何と」と流石に驚いて、事情を聞いて見れば、委曲く話しても聽かせぬが、何うやら



雙影 (五) 南船北馬樓主人

の讀物。鮮(一)卷三(二)二十五號(原稿本町見)。
丁目(朝鮮雜誌)。
○近藤(五郎氏)の來朝
「骨董商」の鑒定を運び、と通して掲載し
たる記事に對し當時の鑑定家近藤佐
五郎氏より左の來朝ありたり
拜覽紙半葉の圓形滑脫酸なる御筆
に似ず隨分虛骨なる素成拔に目撃が
一驚致候
骨董商物見違ひはなきものを
人見違ひは近藤はじめて
和田近藤序まで
高麗の平野は國のはな園

し今日の盛況に達したる老舗なるが更に支店を増設し益々業務を擴張する由詳細説明書等では申込次第無効に進呈すると

朝鮮五月號 本を出てゝ愈々盛んなり口糧には日本觀光團員及び「平壤愛國婦人會員」の爲めの掲げ内容は例に依りて時事評論、論説、主張、研究、資源、人物、評伝、文藝、雜纂、名流談話等同様に有きにして、識家等の意見、無名人の「統一統就」と東洋拓殖會社、旭硝子の「揚日思想」と振興思想ヒマラヤ山人の「統就府中」の人物等は本誌

(六)は昨日新月下、様より 源氏名を花子と
名乗より、娼店の列に加はる

齒科診療 自午前八時
至午後五時
東京醫科大學 南山町巴城館上隣
就敎府屬託齒科醫
電話千百四十番 飯塚 徹
通

●安西商會の發展 大阪西區松島町二丁
目特許製糖機製造發賣安西商會は製糖業開
始以來、製糖機を賣み精選した西商會は製出
其効用に於ては舶來カワード機に比し價格
低廉使用上頗る良好にて實驗者の好評を博

飛ばしたる事件は昨日南部署にて示談を遂
 げ李太郎より金十圓を出して事済みなりと
 ●小樹さんと花紋君 仁川漫園の小樹は
 病氣にて休業中の處昨日より就業し同様の
 花紋は病氣のため同日より休業せりと一寸
 拜察まで
 ●酌婦のドロン 仁川寺町の飲食店、後
 亭の酌婦川口榮也(こ)は情夫と手に手を取
 りて駆落ちを極め込みしかば亭主は狼狽し
 て其の筋に捜査部を差出す
 ●下様の新妓 昨午迄仁川敷島遊廓常
 盤樓より上り花町事徳嶋市古物町高島ひさ

御嶽に上り、横濱の船泊を起し、附近島嶼へ交通を便にし、淡路、薩津江等の河川を利用して、以て運輸を謀ると同時に、仁川附近の米穀を搬出、販賣に斃れたる故仁川署巡査部長山内長三郎氏の爲め同縣人二艘に對し、密附金募集中なりしが、昨日仁川署を経て、還族に金二百五十四圓五十二錢を贈りたりと云ふ。

拾圓のナゲ賃 昨日の本紙三面欄に擲金を擲ると題して記載したる明治廿二年、自泉子、商門野李太郎二氏がナゲ賃の増徴を請求爲られたるに、立應して其擲金を擲り

て跡を譲ふ。
斯くとも知らずや耳に口つけて囁き合へり
兩人は口付待合處に入らば、惨なる戀や
露る雨光をかくして夜泣きを即ち始め、寒の
西の風曇後晴

●天氣豫報(自五月午後六時)
四日 最高溫度 五九・七
最低溫度 (華氏) 五一・六

●警戒
低氣壓は双列列線にあり強風
る。氣壓は七百五十九托を示し北東
向つて進み、之を韓國北部及中部を警戒

廣 告

くになつてゐる、影も見えず、
 豊日來、京城に雨多き、此の阿婆の涙なり
 かな。
 本町通りに出づ、夜深うして人影絶へたり
 各戸の軒燈徒らに耿々の光を放てるのみ。
 後ち人あり肩を括めて行く、女なり、男な
 り。女は三十一、二か、丸髷髪の色は何に
 や。丸に爲の三ツ紋附袴、男は二十五か、
 七か、衣袂風に翻りて蘭香を向う上の鼻孔
 を來り襲ふ、多く喰ひに堪はず、鼻を極ふ

二三、色相や赤き丸顔にほたるし許りの愛嬌あり、男は廿八九にもや頗る付きのハイカマ男官更か、會社員が月に青きて立ちたれば面くらに由緒にも登なし

「ふー、田中さん今晩は泊つて行つても宜いでしょう……」

「イ、ニ、大丈夫來つこなし」

「大丈夫、一万一來た所でそんな心配はさせません、且那を胡魔化す間隔短からすして聞け可らず、担扱へて韓洋亭の手前の成る巷路に入る、解語花を培ふのは、春の桜風に必せよや」

梅の家の横を新町に入る、標たる哉、這箇

城の夜の秘密を覗んとはあらざる也。
本町裏通りを一直接に宛かも我が腕に抱か
れて夢安けく眠れる妹の息の如、あるど
しもし覺ゆる行春の夜風の、やゝ熱き我類
を弄るに任せせて、新町方面へ歩を運よ。
人にも辻に逢はせ。
元軍司令部附近の右手の角の所に、夜の静
寂と破つて男女の密語けるを見る歩を進め
て驚かさん心なし、さらば歸らんか、去
るも又愛惜し小暗さ目に懸け佇みて其の去
るのを待つ。
見たるどしもなく打ち成る、女は歳の頃二十

●貿易 仁川の生命は悉く産業を起すの計画を立て附近の農園は蔬菜及果樹の栽培を爲し干潟の利用漁業の擴張に注

●四月中の雇傭數 仁川港に於ける四月中の雇傭數を聞くに七十九頭強一頭なり

●ぶらつ記(一) ばく

五月二日、漸くにして晩食を終す、時計を見るに十二時也。起つて南窓を拂ひ月光を浴びて衣色淡きこど水の如し。微醉を帯びて月下に逍遙す又風流ならずとて京

特許ノ
カッパ
十時
氣力
小供
右の
動機
販賣
諸通
發明
製鐵
造元

本機は船に於て、
價格低廉無比
其動力強固な
品を新
足踏入貫でも
容易く十八貫
と產出する
右の外製綿用諸
機械並に石油
動機各種共廉價
に販賣仕候御細
詢知次第詳細
説明書を送呈す

大阪府西區松島町
二丁目東三條南
同敷町三丁目
安西商會
同梅田西詰南入

安西商會



東洋總代理店

新案
安西式
ローラー
製綿襪

石鹼



實用

アイボリー

店支城京原藤
番九八一話電

春川區裁判所及警察部長官舍其他修繕工
 右五月廿一日入札ニ附ス詳細ハ四日以後ノ
 官報又ハ當所若クハ春川警察署ノ揭示ヲ見
 建築所
 京城大分縣人會
 來る八日(土曜日)午後正五時
 より本會春期大會を開催す
 同縣人諸君は奮て來會せられん
 とを希望す
 會場 京城大和町三丁目梅の家
 會費 金貳圓 當日御持參の事

貳拾九坪貳合四勺
一第四號宅地面積
拾壹坪壹合四勺

石心土地各號每二號賣一廿五希覽者上入札人
得書及契約書案不費時限只本部二出照保證金
添へ十八日午後五時止
但取保證金ハ見積額ノ百分ノ十以上トス
入札保證金ハ見積額ノ百分ノ十以上トス
此契約ハ年度支部會計課長久芳支介擔任ス
隆熙三年度支部會計課長久芳支介擔任ス

度支部

○爵診警察廳舍及警部官舎其他新築工事
右五十二口入札ニ附ス詳細ハ四日以後ノ
官報又ハ當所若クハ釜山出張所ノ揭示ヲ見

以上の方法を講ずるに、は所謂港車トラスヲ
 爲す等ならず
 見ても、より春手に、漢江の沿岸に柳の植付
 南大門附近
 土地競賣廣告
 第一號宅地面積
 八拾坪四合
 第二號宅地面積
 參拾貳坪九合
 第三號宅地面積

[illegible]

本日の業
 分一五五一税刊分半二共都一定號拾第
 年錢拾圓共都増年説拾税價

余七十一年間一苦悶
 實業之日本顧問農學博士新渡戸稲造
 決心を實行して中途厭ふにあらば如何にすべき
 外部より決心の實行を妨害せにあらば如何にすべき
 願笑聲又又は好意を以て妨ぐる場合は告ぐ
 子弟
 三學校報徳主義を實行す
 二千三百圓以上死に實績
 常讀書を爲め増給する
 從前一週間に三時間以上製造業機械
 殊に成小を三時間以上製造業機械

五十圓以上死に實績
 社員には千二百圓以上死に實績
 選命を欲して死に實績
 以上死に實績
 阿波老金と與
 阿部泰盛
 無死に實績
 安山火災
 片町屋

本日の業實町屋糾南區橋

甘錢均 一として毎夜無休
午後六時迄に御越の御方に限り十五銭雨天は半額

電話千百三十七番 京 城 座

京城第一の娛樂場

終日の勢を慰せんご欲するには須らく弊
座に求めらるれば必ず中や興多からん

五月一日發行
毎月二回
第二拾

大阪實業界の中心

何に如變遷來し
如何に繁榮進歩せり
△中心の人物が交代して中心となりたるか
△中心の機軸が勢力を失ひて消滅したるか
△北軍帥の獨擅を大吹毛を被る

東京 京都 大阪 東京

皇太子殿下

實業

新聞

第拾

極北軍帥の獨擅を大吹毛を被る

東京 京都 大阪 東京

覽場に當て五月三日より興業開始として源
氏節三根松一座を招聘致し開演仕候間賑々
敷御來臨の程奉希上候 頓首

龍山入島町

御園館主敬白

電話四二九番



百花草を競ひ溫暖掬すべきの候各位盡々御
清貌之段欣喜不斜候私共今般有志諸君の御
贊助を得て大島町元魚市場跡を改築寄席に
致し此の没趣味なる地を花壇に勝さる樂園
たらしめんと趣り御翳館と命名し各位の遊
覧に於て其計畫を實行すば自然に繁榮を期
するに至るならん

入港仁川支那の工事に従事すべしといふ

一昨白釜山よ



